

76 明治9年11月19日 菊池長閑宛

第十五号十一月十九日 (長閑注記)

第九号九月二十九日付去る十日頃落掌煙草印紙御送被下難有嘸
子供へ喜ますたろう先便当国男女交り振一寸記候所御解にて御
安心被下たる由望外の幸なり拙筆故本統(ごう)に御読取ハ六ヶ敷事と

思居たる仕合なりし報知新聞以来河上より送呉候趣先ハ安心馬
場にハ御序に厚礼を御申通被下たし藤村にハ新聞の義に付色々
面倒懸ケ申訳無之是迄御蔭にて右新聞を見たるの礼をも御申通
を願ふ何れ此内書状をも可差出」去る七日ハ当国撰挙日にて大
統領州知事始め名代人杯総て撰挙する日なり近所に在区会所に
往て見たるに頗る面白かりし先便申上たる旗挙式の後ポストン
にて大仕掛の松明行列ありたり右ハ「レハブリカン」政党の党
一なり
の催にて「マサチュセッツ」当州中
ノ名の郡々より其党の者共各
隊を結てポストンに出懸て来たるハ夕暮の事にて勢揃ハ九時頃
なりし私の見たる時ハ最早十時なりけるか皆兵隊の服を着し其
色仕立等ハ思くの工夫にて各彼カンテラ棒を肩へ筒にて押行
太鼓あり喇叭あり笛あり鐘あり拍子も自ら種々なり学校の書生
隊計ハ戎服ならず其人數ハ測り難共十時より見始めて最終の騎兵
隊の通り過たる時ハ一時なりし是にて大想(ごう)なる事ハ御察あるへ
し各隊の持運たる行灯ハ盛岡にて「マンド」と云ものゝ如し然
し形ハ皆「デンガク」行灯と同じ其に画たる絵ハ多分道化絵に
て中にハ殊の外面白きものありし且此行灯にハ郡の名と其郡よ
り撰挙し度人の名并大統領州知事に撰度人々の名を記セリ道筋
の富家ホテル等にてハ小田原提灯(ごう)の如きものを窓々より釣懸旗
を翻し火花を揚明なる事昼の如く賑なる事御祭礼の如し即今の
州知事は同党の人故出張して行列を見たるが各隊知事の前に来
れハ「ケアップ」を振廻し「ホラー」の(採音)「三返」(採音)を三返発し
たり知事ハ一々之に答礼を行たり扱彼入札日にハ彼会所前入札
人の群集一方ならず(此日ハ職業を休者多し)戸の内外に札配

り人数十人ありて此ハ甲党の札なり彼ハ乙党の札なりと互に自分党の札を押付様とする状神社仏閣の札売か角力芝居寄セ番付の押売杯の如しさて此札にハ大統領領州知事名代人大統領撰へをき人人民ハ直に大統領を撰にハ非ず大統領を撰へき人を入札し其人ハ寄集て大統領を撰等の名あり此等の名ハ前兼て寄合を付定め置な右名ハ予め定めありて撰挙日迄にハ大概甲党の推立る大統領ハ誰州知事ハ誰乙党の推立るハ誰々と極りある故夫々の名を板刻し之を名て甲党札乙党札と云ふ入札人ハ一々統領州知事等の名を書記す世話なく甲党の者なれハ甲党札を貰勿論無銭にて呉なり乙党に与する者ハ乙党札を請取て入札するなり然し仮令は大統領領にハ甲党の人を入札すれ共州知事にハ乙党の人を撰度と云者あらん其用意に一人々々の名をも板刻し置故其を貰甲党札州知事の名の上に乙党州知事の名札を張紙して入札する事か出来るなり会所にハポリス多人数詰居互の張合より喧嘩杯のなき様嚴重に番をするなり中にハ窃に甲党札を入札すへしと説得する者もあり甲党の人々を任に当らすと論するものもあり種々(維多力)薩陀なり勿論銘々思存分に入札すると云ハ法なれハ威し懸たり無理往生ハ成らぬ事ながら随分中にハ巻煙草一本ビール一杯位て甲党の者を乙党に引入事あるなり入札人にハ甲乙党説の善悪も弁へす其党々の押立たる人々の人柄をも知らぬ者多故一杯一本の餌に掛る者多かるへし又或ハ我父ハ甲党故己も甲党たと云奴もあり是ハ家督相続ならて政党相続とも云へし最可笑事あり教育ハ能行届たと云ても人民誰も学問あり物事を能弁る世にハ未タ達せざる故残らず政党説を知分て入札する事ハ望むへからず無学の割合にハ能穩に入札するなり会所ハ只広き部屋一ツなり左に小高

き所あり其処にハ役人七人居て二人ハ前に立税を分頭税を云ふ右を払ぬ者入札し得納たる者の面付帳を扣居其脇に札入箱番する者一人立居たり此高き部屋の前に蘭干あり部屋と蘭干の間ハ丁度(抹消)一人立の幅にて此間を人々順々に通る趣向なりポリスは此細道の口に立て順を正す入札人此入口にて其名を役人に云述る役人帳面を調へ其名あれハ宜いと云ふ其時ポリス右入札人を通す入札人此細道を伝て箱の前に達し札を入れて細道の向口より出行なり札箱に満れば役人其箱を後に座り居四人に渡し空箱を備換るなり右の四人ハ大机を中に置其上に札を箱より取出し甲党ハ甲党と撰り分け誰ハ何程の札数を得たるかを吟味するなり右算用終て其報告を封して州庁に送る大統領ハ其を撰人等か一州より二人宛出此後寄合て撰迄ハ本統に極らぬなり然し撰人に甲党の人多けれハ多分甲党の者ハ大統領と成なり「ルイズヤナ」州の入札報ハ未タなし甲乙党の勝負ハ此一州に懸る故各握り拳にて待居なり両方斯の如平均する事ハ稀なり博覧会ハ愈去る十日にて仕舞たり日本の展品所ハ当国博覧会掛に進物したり諸国物を運去迄十日の間明日迄なり為見る由十二月初の郵船にて日本人か沢山帰る由なり

御尊父様

武夫拜

(長閑注記)

「明治十年一月二日達し

返事同月十九日第一号ヲ以出し」